

平成 25 年 7 月 9 日
内閣官房総合海洋政策本部事務局

第 6 回海洋立国推進功労者表彰について

文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省及び環境省が内閣官房総合海洋政策本部事務局の協力を得て実施している「第 6 回海洋立国推進功労者表彰」につきまして、4 名 3 団体が表彰されましたので、別紙資料の通りお知らせいたします。

別紙資料

- 資料 1 第 6 回海洋立国推進功労者表彰受賞者リスト
- 資料 2 各受賞者の功績事項の概要
- 資料 3 海洋立国推進功労者表彰について（概要）

【お問い合わせ先】

文部科学省研究開発局海洋地球課

古河 03-5253-4111（内線 4459）

農林水産省水産庁漁政部企画課

中村、近藤 03-6744-2343（直通）

経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部政策課

堀 03-3501-2773（直通）

国土交通省海事局総務課海事振興企画室

岩下、武田、竹本 03-5253-8946（直通）

環境省水・大気環境局水環境課海洋環境室

野口 03-5521-9025（直通）

第6回（平成25年） 海洋立国推進功労者表彰 受賞者リスト

資料1

1. 「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野

部 門	氏名・名称	年齢	所 属	功 績 事 項
普及啓発	公益財団法人 日本財団	—	—	【多年にわたる海洋に関わる多面的かつ先駆的な諸活動】 海事・海洋に係る人材育成事業の推進、マラッカ・シンガポール海峡等の航行安全支援、我が国の海洋政策に関する提言、「渚の交番」プロジェクト及び「Sea Bird」プロジェクトの取り組み、造船所の人材育成などの取り組み、東日本大震災における海の復興支援事業や海洋関係事業に対する助成など幅広く活動。
科学技術	塚本 勝巳	64	日本大学	【ウナギの産卵と回遊に関する研究】 新しい解析手法の導入等により、ウナギ卵やふ化仔魚を採集することに世界で初めて成功し、最大級の謎であったウナギの産卵地点を特定した。また、これらの成果をNatureを含む600編以上の学術論文としてまとめるとともに書籍出版等の広報活動を行った。
科学技術	内藤 林	69	大阪大学	【船舶の実海域推進性能の先駆的研究】 実海域での波浪中抵抗を効果的に低減させるためには水面近傍の船首船型が重要であることを世界に先駆けて理論的、実験的に明らかにし、波浪中抵抗を低減する船型開発により船舶の省エネルギー化に貢献した。また、実海域推進性能の計算システムの構築や複雑な波を精度よく長時間にわたり再現できる造波水槽の開発により船の性能推定の研究に貢献した。
地域振興	安部 義孝	72	アクアマリン ふくしま	【水族館を通じた地域振興と震災復興への貢献】 「海を通して人と地域の未来を考える」という理念のもと、地域に根ざし開かれた施設づくりに努め、ボランティアの導入を積極的に進めてきたほか、多彩かつ個性的な展示ソフトを開発し、地域振興及び魚食普及にも貢献した。東日本大震災では、わずか4ヶ月という驚愕のスピードで再オープンを果たし、地域の復興のシンボルとなった。

2. 「海洋に関する顕著な功績」分野

部 門	氏名・名称	年齢	所 属	功 績 事 項
科学技術振興	国立極地研究所 海洋動物研究 チーム	—	—	【海洋生物に関するバイオリギング手法の開発と水中行動・生態の解明】 小型かつ多機能な行動・環境情報記録計を海洋生物に直接とりつけて観測を行う「バイオリギング」手法を世界に先駆けて開発し、100種以上の生物について、高精度の行動・生態情報を取得することに成功した。この成果は海洋生態系に関する情報の高精度化に大きく貢献し、社会にわかりやすく発信することで、科学への関心を高めた。
水産振興	八重山 漁業協同組合	—	—	【「島人(しまんちゅ)の宝」豊かな海を守る取組】 日本最大級珊瑚礁海域を漁業者自ら海洋保護区に設定し、全国でも稀な40種以上にわたる魚類の資源管理型漁業を実践するとともに、珊瑚の天敵駆除や海底清掃が中心となって取組み、日本有数の観光資源であり環境学習の場である珊瑚礁生態系の保全活動を推進。
海事	柳原 良平	81	—	【親しみやすい作品による海事思想の普及】 複数の海運会社から名誉船長に任命されたほか、船長協会名誉会員に推薦され、船や港を題材にした作品を多く描き、船体のカラーデザインとネーミングを担当するなど、海事思想の普及に大きく貢献した。

※「自然環境保全」部門については該当者なし。
※年齢は平成25年7月9日現在。

1. 海洋立国日本の推進に関する特別な功績 分野

普及啓発・公益増進 部門

氏名又は 団体名称	こうえきざいだんほうじん 公益財団法人 にっぽんざいだん 日本財団	
所 属		
功績の概要	多年にわたる海洋に関わる多面的かつ先駆的な諸活動	
功 績 事 項		
1. 「海の世界の人づくり」事業として、世界の研究機関や大学、政府、国際機関等と連携し、117 カ国、800 人以上の人材を育成。また、東京大学等の国内大学における学際型講座の開設や海上保安大学校におけるアジア各国の海上保安機関職員への研修プログラムの設置など、幅広い人材育成活動を実施している。		 「海の世界の人づくり」事業奨学生
2. 40 年以上にわたりマラッカ・シンガポール海峡の航行安全・環境保全活動に従事し、「マ・シ海峡協力メカニズム」の構築及び「マ・シ海峡航行援助施設基金」の設置に尽力した。		 マ・シ海峡へのブイ（浮標）の設置
3. 2005 年に「21 世紀の海洋政策への提言」を日本政府に提出、海洋基本法の制定と海に拡大した国土の管理の重要性を訴えた。これが契機となって、2007 年には海洋基本法が制定、2008 年には海洋基本計画が策定された。		
4. 海の利用者と地域を結び、多様なつながりを生み出す窓口となる「渚の交番」プロジェクト(全国 8 地域)の推進や、水上バイクの特徴を生かした海洋教育、安全啓発活動などを行う「Sea Bird」プロジェクト(全国 12 地域)を展開している。		 宮崎県・青島の渚の交番
5. 日本中小型造船工業会を通じて造船技能開発センターを設立し、造船技術の伝承に貢献している(約 3000 人が受講)。また、日本造船協力事業者団体連合会を通じて造船所職員に対する安全体感教育を実施し、事故発生率の減少に大きな成果を上げている(約 6500 人が受講)。		 造船技能開発センターでの研修
6. 東日本大震災に対する海の復興支援として、被災船舶や被災造船関連事業者等のための緊急融資・再生支援や、海洋関連高校への教習艇等支援など、産官学の連携による多様な事業に積極的に取り組んでいる。		 被災船舶への緊急融資による新造船

1. 海洋立国日本の推進に関する特別な功績 分野

科学技術・学術・研究・開発・技能 部門

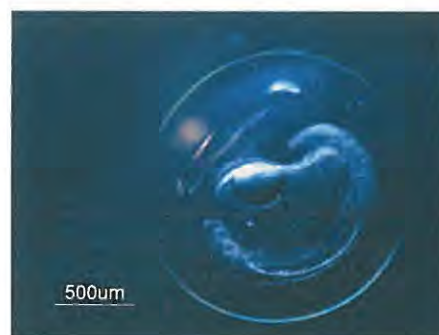
氏名又は 団体名称	つかもと かつみ 塚本 勝巳	年齢	64	
所 属	日本大学			
功績の概要	ウナギの産卵と回遊に関する研究			

功 績 事 項

1. 海洋生物学に残された最大級の謎であるウナギの産卵場を明らかにした。
2. 生物学のみならず、海流や海底地形など海洋科学に関する知見を総合し、ウナギの産卵時期を特定する「新月仮説」と場所を特定する「海山仮説」を構築した。
3. グリッドサーベイ法や船上遺伝子解析による種同定など、新たな手法を研究航海に導入し、史上初のウナギ卵を採集することにより西マリアナ海嶺南部にウナギの産卵場があることを特定した。
4. 北赤道海流と黒潮による仔魚の回遊メカニズムや外洋における初期生活史など、次々と先駆的な研究成果を発表した。
5. ウナギ産卵場の一角にある無名の海山を、その調査に当たった静岡県水産試験場の調査船駿河丸に因んで「スルガ海山」と命名した。現在 Suruga Bank として国際的に認められている。
6. 研究成果を計 600 編以上の学術論文として出版するとともに、小学 4 年生の国語の教科書に科学読み物「ウナギの謎をおって」を執筆し、海洋科学の発展と普及に大きく寄与した。



ニホンウナギ *Anguilla japonica* の
産卵場（星印）と仔魚の輸送経路。



人類が初めて目にしたニホンウナギの卵。
2009 年 5 月 22 日未明、新月の 2 日前に西マ
リアナ海嶺南端部の海山域で採集された。

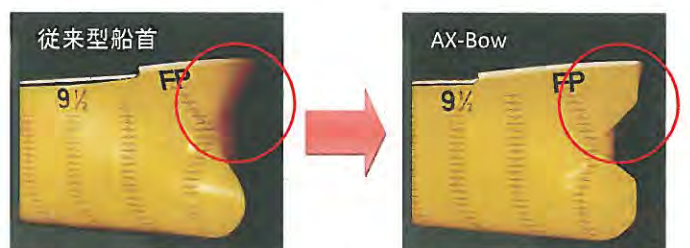
1. 海洋立国日本の推進に関する特別な功績 分野

科学技術・学術・研究・開発・技能 部門

氏名又は 団体名称	ないとう しげる 内藤 林	年齢	69	
所 属	大阪大学名誉教授			
功績の概要	船舶の実海域推進性能の先駆的研究			

功 績 事 項

1. 1970 年代までは、波に起因する船舶の抵抗増加の影響は、船舶の推進性能の改善に対して顧みられることが少なかった。そのような中で、波のある実海域における船舶の推進性能の重要性に早くから着目し、波浪中抵抗を効果的に低減させるためには水面近傍の船首船型が重要であることを、世界に先駆けて理論的、実験的に明らかにしてきた。この成果は、波浪中抵抗増加の低減効果を有する船型開発につながり、2000 年以降に建造された多くの大型貨物船に対して実用化され、実海域の船舶の省エネルギーに大きく貢献している。
2. 2000 年の初めまでは日本造船研究協会が中心となり、国内の主要造船企業と大学が参加して共同研究が実施され、実海域推進性能の推定の計算技術が研究・開発されてきた。しかし、その成果である計算コードなどは、各所に散在した状態で広く一般に利用されているとはいえなかった。それらを一か所に集約し、インターネット網を通じて利用できるシステムを構築した。これにより、計算コードを常に最良、最新の状態で維持管理できるとともに、いつでもどこでもだれでも利用できる環境が実現した。現在、本システムは、この分野の研究者や技術者に広く利用されている。
3. 実海域の複雑な波を精度よく長時間にわたり再現できる要素型造波吸収装置を全周に配置した波浪水槽を世界で初めて開発した。その概念をもとに、独立行政法人海上技術安全研究所の実海域再現水槽(2010 年完成)が実用化された。さらに、三井造船昭島研究所にて実験水槽として製品化された。この水槽は、実海域の複雑な波の中での船の挙動や性能推定の研究に大きく寄与している。



NKK (現ジャパン マリンユナイテッド) との省エネ船首形状の開発。その後の各社の船首形状開発に大きな影響を与えた。



実海域再現水槽の開発。造波性能の評価のために、一例として水面に波で文字を描いた。

1. 海洋立国日本の推進に関する特別な功績 分野

地域振興 部門

氏名又は 団体名称	あ べ よしたか 安部 義孝	年齢	72	
所 属	アクアマリンふくしま			
功績の概要	水族館を通じた地域振興と震災復興への貢献			

功 績 事 項

1. 「海を通して人と地域の未来を考える」という理念のもと環境水族館として、併せて五感に訴える体験を重視した水族館の館長として、地域に根ざし開かれた施設づくりの一環として、ボランティアの導入を積極的に進めてきたほか、地域の交流、集客の拠点として環境整備に努めるなど、特色ある施設運営をしてきた。
2. 地域振興の一助として「うおのぞき子ども漁業博物館」を地元の漁業組合と協働して開設。海洋保全、水産振興、魚食普及など多彩かつ個性的な展示ソフトを開発したほか、無名な魚種（マルアオメエソ）を市の魚に仕立て上げ、地域振興及び魚食普及にも貢献。
3. シーラカンスの生態調査を精力的に進めており、その過程において生息地域住民との海洋生物に関する情報の共有を通して、インドネシアマナド地域の海洋系大学、そして政府機関と協働して地域振興のため海洋保全の一役を担うなど、日本だけでなく国際的に海洋保全を通して地域振興に寄与した。
4. 東日本大震災・原子力災害により、深刻なダメージを受けた施設の復旧や生物の避難について、日本全国のみならず海外の水族館からの支援と協力、多くのボランティアと力を合わせることで、わずか4ヶ月という驚愕のスピードで再オープンを果たす。このことにより、地域の復興のシンボルとなり、小名浜港や福島県のみならず、全国そして海外に地域の復旧復興を示した。また、地震と津波災害を「わくわく里山プロジェクト」として反映させ、水族館施設の周囲に盛土して防潮堤を整備し、その中に縄文弥生時代まで懐古した「里山」を再現することを提唱した。これを推進する財源については、長年にわたり交流と親交を続けてきたクウェート国からの寄付金300万ドルが実現している。



ボランティアによる震災復興活動



「がれき座」における再オープンイベント



シーラカンス調査風景